

ずいそう

趣味雑感

助 友 利 隆



私は去年の9月で古希を迎えましたが、夏はゴルフとバイクツーリング、冬はスキーと、健康維持を兼ね趣味として四季を通じて楽しんでいます。バイク(750cc)は脳への刺激が強く、ボケ対策に良いと思っています。どんな趣味でも上手になれば楽しさは倍加しますが、長続きの秘訣も上達の秘訣も探究心ではないでしょうか。ゴルフもスキーも比較的簡単には上手になれるスポーツで、所謂上達本が沢山あり、結構な数を読みました。内容の多くは体と道具との関係や、身体の動き、力の入れ方等チェックポイントを主眼に解説しています。だがそれらをどのように繋げば上手くなるのか、練習プロセスを解説したものは殆ど無いように思います。私の結論は、本を読んでも「畳上の水練」では上手くはならない…です。そうした中で、スキーには唯一古典的「バイブル」があります。オーストリーのクルッケンハウザー教授が著した「オーストリースキー教程(1960)」です。ベテランスキーヤーの動きを体育学的に分析、そのエッセンスからコツを説くのではなく会得する「練習プロセス」を示しています。誰でもそれを一つ一つ反復練習していけば4~5日で滑れるようになり、更に上級へも進めます。競技でない限り、ゲレンデを上から下まで自在に滑り降りることが出来れば目的は達成、そして楽しい。ゴルフはルール上許される14本もの道具を使い、遣る事も遥かに多様で複雑なのでチェックポイント教本だけでは中々上手にならない。私の趣味は三つとも道具を使って楽しむので、とりわけ道具の良し悪しが、楽しさや上達に影響すると考えています。さらに所謂良い道具を持つことで自己満足する事が“趣味”になる面もあり、上手くないのに道具には凝る人も多い。だからゴルフは奥が深く、一度始めると嵌まってしまひ殆どの人は抜け出せないのだと思う。

根が技術屋の性もあって、道具には技術的な興味が沸きます。ゴルフ道具、スキー板、バイクもここ20年ほどの進歩改良は目覚ましい。新製品が出る度にすぐ買う人も居られるが、生半可なお金ではついて行けない。しかし経済効果を云々しないのが趣味で、欲しくなるとブレーキは効かなくなるものです。ご多分に漏れず私も可也の数の道具を試してみました。バイク

は都合5台、スキー板(安物が殆ど)も相当数買いました。ゴルフクラブは高価すぎて手当たり次第に試すという訳にはいきませんでした。近頃は試打クラブがあり買わずに新製品が試せますが、10年も前には殆ど有りませんでした。新製品が出るたびに「飛距離」は伸び、「真っ直ぐに飛ぶ」と宣伝されるし、プロによる試打評価が購買意欲を煽っています。そもそもクラブ性能の物差しは何か、印象評価ばかりでは判断のしようが無いのが実情です。そのような訳の判らない性能を何とか科学的に理解したいと思いつけていたが、ある時、クラブの自作に関する記事を見て、これは面白そうだとクラブ組み立てを始めました。ヘッドやシャフトなど、部品の詳細なスペックを理解しなければ買えません。単純に「シャフトが走る」などという宣伝文句は、スペック上何を言っているのか次第に判ってくると、次は何を試そうかと探究心は強まり、クラブ作りが新たな趣味になってしまいました。各部品のスペックと出来上がったクラブの結果について書くには、膨大な紙数を頂かないと出来ないし、プロの設計家に怒られると思うのでここでは辞めます。只いえる事は高価な市販クラブが「真っ直ぐ良く飛ぶ」訳ではないという事が判った事と、広告の記述ほど素人を混乱させるものは無いという事です。同様にスキーの板も、性能がフィーリング表現される道具です。10年ぐらい前にカービングスキーが出てきて、スキーが簡単になったと言われていますが、今店に並ぶスキーは派手な模様で殊更カーブを強調したものが多い。長さも、幅も各種あり、性能の表示として唯一回転半径が示してあるが、自動車のハンドルを切るようにその数値通り曲がれる訳ではない。エキスパートは別として素人にはどのスキーが良いか選択は大変難しいのです。スキーは自作できないので宣伝文句に惑わされながら、あれこれ技術屋の思考を巡らせ道具探しをしています。ある意味これも楽しい。ゴルフもスキーもまだ上手になりたいし、バイクとも出来るだけ長く付き合いたいと思っています。

—すけとも としたか コマツ顧問—